

教職支援室便り（7月号）

令和4年 7月 8日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用選考試験（第一次試験）始まる

教員採用選考試験（第一次試験）が始まりました。すでに、北海道、鳥取県などでは、第一次試験が終わっています。今月9日（土）、10日（日）には、九州各県市で行われます。

昨年10月から「教職特別講座」を行ってきましたが、学生の皆さんは、誠実に、真摯に、演習に取り組んできました。がんばってきました。そのことを踏まえ、「やれるだけのことはやった。」という気持ちをもって、試験に臨んでほしいと思います。これまでの努力は、これからの人生を豊かなものにする信じてください。

なお、九州各県市及び本学の学生の皆さんが受験する自治体の、校種等、採用予定数、応募者数、倍率について、下欄に掲載します。

自治体	校種等	採用予定数	応募者数	倍率
宮崎県	小学校	135	261	1.9
	小学校英語	5	11	2.2
	中学校英語	11	55	5.0
	高等学校英語	5	22	4.4
大分県	小学校	200	208	1.0
	中学校英語	20	32	1.6
長崎県	小学校	260	336	1.3
	中学校英語	13	36	2.8
福岡県	小学校	660	859	1.3
	中学校英語	55	85	1.5
福岡市	小学校	294	471	1.6
	中学校英語	21	53	2.5
北九州市	小学校	140	308	2.2
	中学校英語	9	22	2.4
鹿児島県	小学校	285	419	1.5
	中学校英語	23	56	2.4
佐賀県	小学校	190	262	1.4
	中学校英語	15	15	1.0

熊本県	小学校	180	233	1.3
	中学校英語	11	33	3.0
熊本市	小学校	165	288	1.7
	中学校・高等学校英語	11	36	3.3
沖縄県	小学校	220	845	3.8
	中学校教諭	105	914	8.7
岡山県	中学校英語	16	75	4.7
鳥取県	中学校教諭	65	290	4.5

卒業生からの便り

令和3年3月に卒業して教職に就いた皆さんは、すでに教職1年目が終わり、2年目を迎えています。

新規採用されて1年間は、学校の1年を見通せない中で、学級担任（副担任）をしながら、初任者研修に取り組むなど、大変な1年を過ごします。本当に大変な1年だと思います。しかし、2年目になると1年目の経験を踏まえ、さらに教職のやりがいを感じるが多くなります。教育現場には、様々な問題・課題はありますが、それだけではないのです。

この教職支援室便りでは、適時「卒業生からの便り」を掲載していますが、今回は、4月に届いた卒業生からの便りを紹介します。教職2年目を迎え、新たな気持ちで学級経営等に取り組んでいます。そのやる気が伝わってくる便りです。

お久しぶりです。お元気ですか？

昨年度の4年生との修了式のお別れは、とても寂しかったです。子供たちと一緒に涙を流して、1年間を終えることができました。廊下で会うと、しばらく会っていないだけなのに、とても大人になっているように見えて、寂しいような嬉しいような、不思議な気持ちになります。教え子って素敵だな、この子たちと関わって良かったなと感じています。

今年度は1年生の担任になりました。1クラス38人で、学年2クラスです。38人ということもあって、どうなることかと思った新学期のスタートでしたが、子供たちは新しいことに目を輝かせ、全てに一生懸命で、1日でできることをいくつも増やしていて、慣れない環境で頑張る子供たちにパワーをもらっています。小学校の基礎を身につける1年なので、責任も感じていますが、何よりも毎日楽しく笑顔で元気に、子供たちの成長を見守り、時には支援をしながら、笑顔で修了式の日を迎えられるよう、頑張っていこうと思います。

曾我先生も体に気をつけてください。また、連絡させてください。

388の面接試問例の分析（整理）：その5

本年3月号から、教員採用選考試験における面接試験の重要性を踏まえ、これまで教職特別講座（旧：勉強会）で活用した、388の面接試問例の分析（整理）資料を掲載しています。面接試験では、人物を評価するために、様々な角度から面接試問が行われます。受験者の皆さんは、自分のよさを十分に表現できるよう、多くの試問例を活用して演習をすることが重要です。

今回は、先月号の「8 学習指導力・授業力に関すること、9 学級経営に関すること」の続編として、「10 徳育に関すること、11 大学生生活・教育実習に関すること、12 教職等に関すること」について、388の試問例の中から、各10問を掲載します。

10 徳育に関すること

- 1 学校教育において、道徳教育はどのように行われていますか。
- 2 「特別の教科 道徳」を踏まえて、どのような道徳科の授業を実践したいですか。
- 3 「豊かな心」とは、どのような心だと思えますか。
- 4 道徳科の授業で、何を伝えたいですか。
- 5 郷土愛を育むことは、なぜ大切だと思えますか。
- 6 人権について、日々取り組んでいることは何ですか。
- 7 「思いやりの心」を、どのように育てたいと思えますか。
- 8 小学校（中学校）の教育課程に、道徳の時間が、「特別の教科」として位置付けられたのはいつですか。
- 9 道徳の時間が、「特別の教科」に位置付けられた理由を述べてください。
- 10 これまで道徳授業が軽視されてきた理由は、何だと思えますか。

11 大学生生活・教育実習に関すること

- 1 出身大学のよさを述べてください。
- 2 大学での専攻内容を教えてください。
- 3 大学の学びで現場に生かせることは何ですか。
- 4 学生生活で、一番充実感を味わったことは何ですか。
- 5 大学では、どのようなボランティア活動に取り組みましたか。それで得たものは何ですか。
- 6 大学では、どのような部活動に取り組みましたか。それで得たものは何ですか。
- 7 卒業論文の内容を述べてください。それは、教育現場でどのように生かされますか。
- 8 教育実習を通して、何を学びましたか。
- 9 教育実習で苦勞したことは何ですか。
- 10 教育実習での一番の思い出は何ですか。

12 教職等に関すること

- 1 教員になっての夢は何ですか。
- 2 教員になるに当たっての覚悟はありますか。
- 3 「教員」を一言で表現してください。
- 4 教員の仕事は、多忙だと思いますか。
- 5 時間のない教員生活の中で、困難なことは何だと思いますか。
- 6 5年後、10年後、どのような教員になっていると思いますか。
- 7 教育公務員と企業で働く人の違いは、何だと思いますか。
- 8 小学校（中学校・高等学校）教員の魅力は、何だと思いますか。
- 9 小学校（中学校・高等学校）教員に求められるものは、何だと思いますか。
- 10 あなたの教職プランを述べてください。

道徳の教科化に思う！（シリーズ62）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、「豊かな心を育む教育活動の創造～道徳教育（道徳科）と福祉教育（福祉体験活動）の関連を図る中で」をテーマに、その3として「体験活動を道徳授業に生かす取組」等についてまとめました。

豊かな心を育む教育活動の創造 ～道徳教育（道徳科）と福祉教育（福祉体験活動）の関連を図る中で～

◇ 道徳科（道徳授業）と福祉体験活動の関連を図った指導

体験活動を道徳授業に生かす取組

- 1 基本的な考え方（学校と地域との連携の中で）
 - ・ 体験活動と道徳授業が連動する指導計画を立てる。（体験活動を目的化しない。）
 - ・ 体験活動での学びを基に道徳授業に取り組み、効果的に豊かな心を育てる。
 - ・ 体験活動の充実は、道徳授業の充実につながる。
 - ・ 道徳授業が実施される前に、その内容を踏まえ意図的・計画的に体験活動を行う。
 - ・ 体験活動の内容は、道徳授業につながるものとする。

2 小学校実践例

体験活動「アイマスク体験」と道徳授業「教材・心の信号機（第4学年 学研）」を関連付けた指導

(1) 指導計画の概要

① 体験活動「アイマスク体験」の実施

実際に、目が不自由であることの大変さや苦労などを体感することにより、周囲からの温かい支援の大切さを感得する。

体験活動での体験を基に、より深く思いやり（支援）の大切さを理解するために、道徳授業に取り組む。

② 道徳授業「心の信号機」の実施

視覚障がい者の方の日常生活における困難性を取り扱った教材を活用し、目が不自由であることの大変さや苦勞などに触れながら、周囲からの温かい支援の大切さを、改めて理解する。

体験活動と道徳授業を関連付けた学習を通して、より深く思いやり（支援）の大切さを理解し生活に生かせるようにする。

③ 体験活動と道徳授業の振り返り

自他の生き方を認め、自他を尊重する心（共感できる思いやりの心）を温める。

今後、出会うであろう様々な場面において、適切な行動が取れるように身構えをもつ。

(2) 体験活動を生かした授業づくり

① 導入

体験活動の感想を発表する。

- ・アイマスク体験を踏まえ、目が不自由な人の立場から困難さや気持ちを話し合う。

② 展開

目が不自由な人を心配する主人公の気持ちを話し合う。

（「心の信号機」を活用する場合）

- ・アイマスク体験を想起し、目が不自由であることの大変さや苦勞を話し合う。

③ 終末

ゲストティーチャーの話を聞く。

- ・目が不自由な人への適切な対応の仕方を学ぶ中で、自他を大切にする福祉活動を理解する。

(3) 福祉協議会関係者等の道徳授業参観

児童生徒に「共感できる思いやりの心」を育むことを目指し、体験活動を踏まえた道徳授業の在り方について協議する。